

＜指定討論＞
トランス・サイエンス的な「対話」の
特質をめぐって

高木光太郎
青山学院大学社会情報学部
大学院社会情報学研究科
ヒューマンイノベーションコース
<http://www.gshi.aoyama.ac.jp>

- 裁判員裁判
- 社会人大学院

- 社会文化的アプローチ
- エコロジカル・アプローチ

コメントの視点

- 楠見さん
 - 批判的思考・高次リテラシー獲得のための対話演習
 - 心理学と社会を巡る問題についての洞察の深化
- 水上さん
 - 自律的対話能力獲得のための対話演習
 - ・ 立場、経験、知識などの異なる人々が第三者の支援なしに主体的・積極的にを行う直接対話の力を獲得させるか
- 富田さん
 - 話し合いスキルの獲得に向けた教育方法とは

今日のご報告から

- 十分に「高次リテラシー」を獲得しているはずの専門家がトランス・サイエンス的な場面で必ずしも有能ではない（エンゲストローム, 2008）
- そもそもトランス・サイエンス的な対話って何？
 - 何が違うのか？
 - ・ 知識の違い？
 - ・ 立ち位置の違い？
 - 何を目指すのか？
 - ・ グループで結論（意見を定める）を出すこと？
 - ・ 具体的なアクションに結びつけること？

トランス・サイエンス的な対話とは？

- “多声の空間”では合意の不可能性が承認され、そのうえで、そのうえで「決定」が決断される。重要なことは、“多声の空間”における「決定」とは、合意の産物ではなく、多数の「声」を聴き遂げたうえでの「決定」、 “合意形成”を拒絶する「声」を聴いたうえでの「決定」あるいは「決定」以降においても「声」を聴く用意があるという約束のうえでの「決定」を意味するということである。

「島団地再生事業」をめぐって
平山 (2008)

- 合意形成モデル
 - メンバー
 - ・ 専門家－非専門家（知識の違い）
 - プロセス
 - ・ 批判的コミュニケーション（共同的な批判的思考）
 - ゴール
 - ・ 適切な（正しい）対象理解に基づく合意形成
- ディレンマ調停モデル
 - メンバー
 - ・ 多様な立場／個的な立場（立ち位置の違い）
 - プロセス
 - ・ 差異化と調停
 - ゴール
 - ・ 不十分な相互理解・合意を前提とした実行を伴う決断（実践的判断）

専門家と市民の対話に関する二つのモデル

エンゲストローム, Y. (2008). 拡張的学習の水平的次元—医療における認知的形跡の編成— 山住勝広・Y. エンゲストローム (編) ノットワーキング—結び合う人間活動の創造へ— (pp. 107-147.) 新曜社

平山洋介 (2008). 多声の空間—島団地再生事業の経験から— 山住勝広・Y. エンゲストローム (編) ノットワーキング—結び合う人間活動の創造へ— (pp. 231-264.) 新曜社

文献